

バカガイ漁場 環境調査

バカガイの資源増大を目指して

プラザ実践チーム
檜山南部地区水産技術普及指導所
函館水産試験場
函館水産試験場室蘭支場
江差町農林水産課
熊石町商工水産課
ひやま漁業協同組合江差支所
ひやま漁業協同組合熊石支所

● 目的

檜山管内のバカガイ資源は、天然稚貝の発生が少ないため近年は減少を続け、管内の多くの支所で禁漁を余儀なくされている。また、大型河川を抱える地区では、大雨時に河川が氾濫し、大量の泥流が沿岸域に流入する現象がたびたび起こり、バカガイ漁場への泥の沈殿・堆積が懸念されている。そこで主要なバカガイ漁場を抱え、泥流被害が頻繁に発生している江差地区と熊石地区において、バカガイ漁場の底質環境を調査し、泥の堆積状況を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

● 調査方法

江差地区と熊石地区のバカガイ漁場（水深4～15m）にそれぞれ、17点と16点の調査定点を設け、GPSにより位置を確認しながら海底の底質を採取した。採取にはスミス・マッキンタイヤ式採泥器を用いた。採集した底質サンプルのうち約100gを120℃で24時間乾燥させた後、目合い63、125、250、500、1,000μmのふるいにかけて、粒度組成を分析した。得られたデータから泥の堆積状況を確認するとともに、過去の調査データとの比較検討を行い底質環境の変化についても検討した。

● 成果

図1に示したように、今回の調査結果から江差地区と熊石地区の底質環境は細砂と中砂を主成分として構成されており、泥堆積の指標となるシルト・粘土分は1%未満と微量であることが判明した。この結果、両地区とも懸念されていた河川からの流入泥の沈殿・堆積は認められず、底質粒度組成からはバカガイの生息には特に問題のない環境であることが確認された。しかし図2、図3からも解るように、江差地区での過去のデータと比較した結果、漁場内の底質が年々細粒化し、且つ粒径が揃って（淘汰度が小さくなって）きていることが判明した。

● 展望と課題

今回の調査結果からは、バカガイ漁場内に泥の沈殿・堆積は認められなかったが、今後ともこの種の調査を継続し、漁場環境の監視を続けるとともに、多少の降雨でも泥流が沿岸域に流入しないような環境対策を講ずることが必要である。また、江差地区では底質環境が過去の知見と比較し、変化してきている可能性があることから、継続した調査を実施し、底質環境の把握に努める計画である。

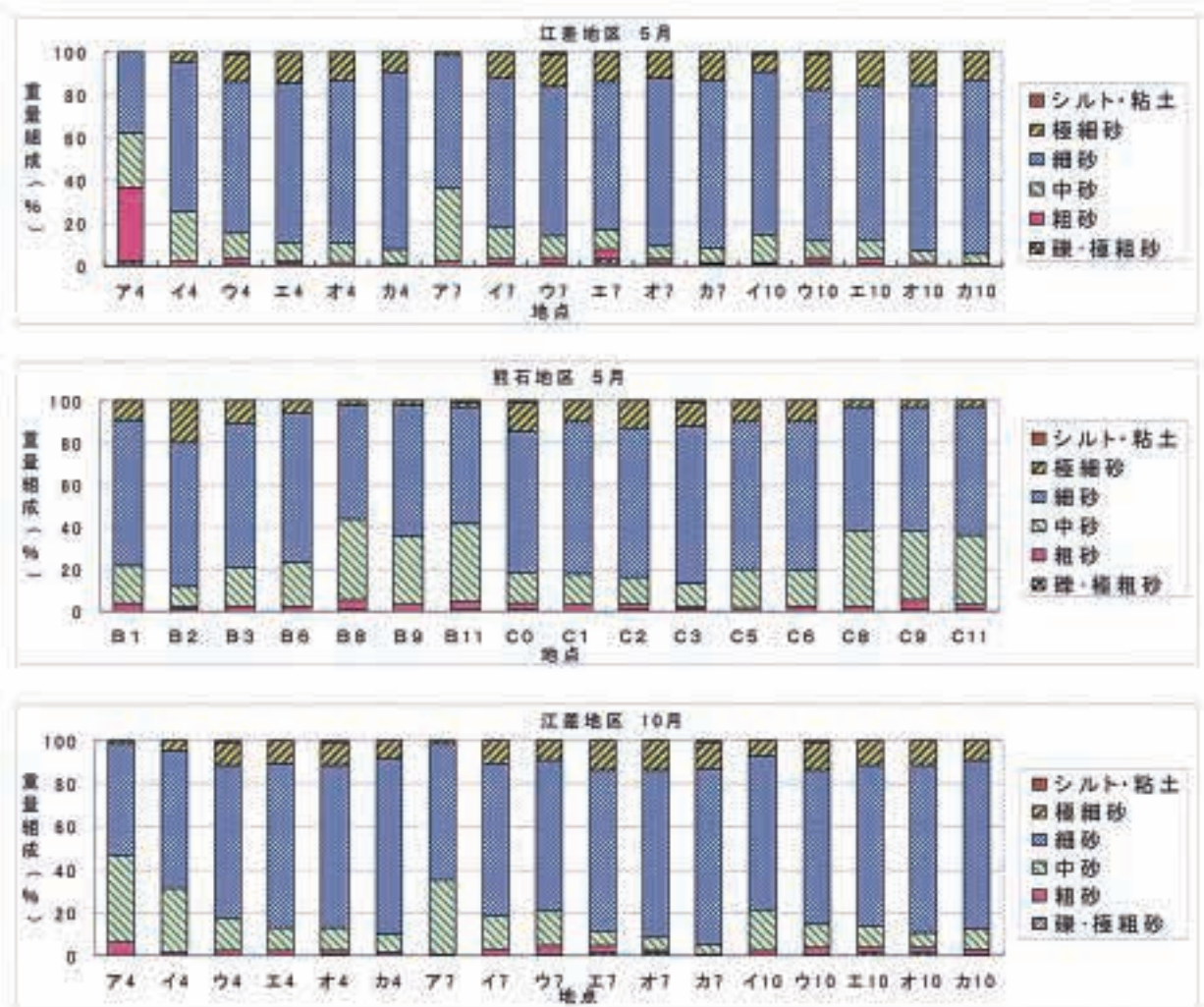


図1 粒度分析結果

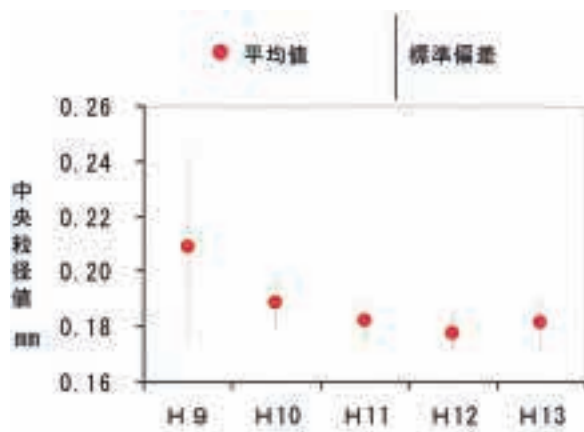


図2 中央粒径値（平均値±標準偏差）の経年変化

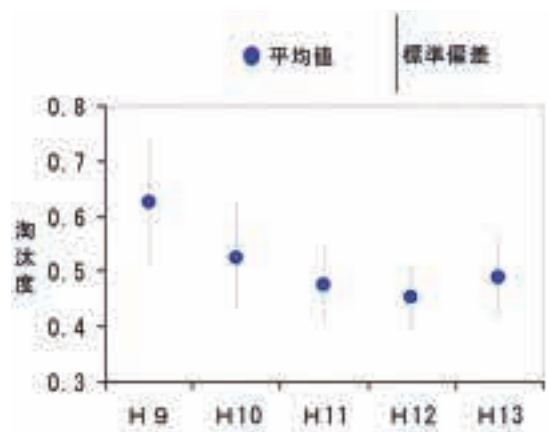


図3 淘汰度（平均値±標準偏差）の経年変化

【連絡先】 檜山南部地区水産技術普及指導所
 住所 檜山郡江差町字陣屋町336の3
 電話 (01395)2-1010 FAX (01395)2-5980